

1 図表番号は、それぞれ Fig. 1, Fig. 2, ...Tab. 1, Tab.
2 2, ...とし、和文、英文の説明をつける。図題・表題に
3 用いる英語は冒頭のみ大文字、以降は原則として小文
4 字を使用する。図表の寸法は、片段横寸法（段組1段
5 分）または段抜き横寸法（段組2段分）のいずれかで
6 作成すること。

7 図表で用いる数字の有効桁数は適切に記載するこ
8 と。また、モノクロ印刷においても識別できるように、
9 写真のコントラストや図の凡例は適切に作成するこ
10 と。なお、カラー印刷を希望する場合には、別途費用
11 を請求する。

13 3-2. 論文で用いる単位系

14 用字・用語については、現代かなづかいとする。ア
15 ラビア数字を使い、原則として SI 単位系 (m, kg, s,
16 A など) を用いる。(心拍数、血圧など SI 単位系以外
17 の単位が慣例となっている場合を除く。)

18 19 4. 考 察

20 4-1. 著者校正について

21 校正は原則として初校のみ著者が行い、初校以降は
22 編集委員会に一任する。必要に応じて表現・語句の統
23 一等は編集委員会が行う。また、校正の段階で論文内
24 容の大幅な変更や著者の追加などは原則として行え
25 ない。

26 4-2. 査読の評価基準について

27 総説論文を本学会では「ある問題に対する最近の学
28 術的・技術的知見や成果を、歴史的背景、重要性、進
29 捗状況、将来の方向等を踏まえつつ、総合的に論述し
30 たものとする。著者の原著報告であってはならない。
31 但し著者の業績を中心に述べることは差しつかえない
32 」と位置づけており、下記の基準で主査・副査は論
33 文の評価を行う。

34
35 **[新規性]**：下記の1)~3)のうち、1つが満たされてい
36 ること。

- 37 1) 新しい発見または知見の提示
- 38 2) 新しい理論、方法論、手法、評価方法等の提案
- 39 3) 新しい問題領域や問題設定の提案

40

41 **[有用性]**：下記の1)~3)のうち、1つが満たされてい
42 ること。

- 43 1) 研究および設計・開発を有効に支援するデータの
44 提示
- 45 2) 学術的、社会的ニーズに対する問題解決法、評価法、
46 対策の提示・提案
- 47 3) 既存の知見や理論および方法の体系化

48

49 **[客観性]**：下記の全てが満たされていること。

- 50 1) 記述内容に誤りや矛盾がなく、記述が分かりやす
51 く、論旨の展開が明確であること。
- 52 2) 研究目的が分かりやすく明確に記述されているこ
53 と。
- 54 3) 実験や調査が含まれている論文においては、実験
55 条件や調査方法が分かりやすく明確に記述されて
56 おり、信頼性を有すること。
- 57 4) 結果、結論が知見として明確に示されていること。
- 58 5) 関連する文献等を適切に引用し、従来研究との関
59 連が明確であること。

60

61 5. おわりに

62 このテンプレートでは、段組の左欄に行数を表示す
63 る「行番号の表示」設定をしてある。査読コメントで
64 使用するため、表示しておくこと（設定方法は p.4 参
65 照）。なお、採択論文が学会誌へ掲載される際には、
66 印刷所にて組版を行うため、本テンプレートの頁数と
67 掲載時の頁数が異なる場合がある。

68

69

70 利益相反

71 総説では原則として利益相反に関する記述は不要
72 である。

73

74

75 <参考：査読のブラインド方式について>

76 人間工学誌の査読では、長らくダブルブラインドの査
77 読方式（著者には主査・副査名を知らせないとともに
78 副査にも当該論文の著者名を知らせない状態で査読
79 を行う方式）を採用してきたが、今日の学術動向に鑑
80 みシングルブラインドの査読方式（著者名を主査・副
81 査に開示する方式）で運営することとなった。著者情
82 報を本文に明示した形で論文原稿を作成のこと。

83

84 謝 辞

85 謝辞はここに書く。

86

87 参考文献

- 1 本文中には、引用個所の右肩に文献の番号を記載し、
2 本文末尾に出現順にまとめて記載する。書誌情報は誤
3 りのないように記載すること。形式は以下の例示のと
4 おりとする。なお、詳細は科学技術情報流通技術基準
5 (SIST) を参照のこと。
6 SIST02-2007
7 <https://jipsti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST02-2007.pdf>
8
9 <論文・雑誌の場合>
10 著者名、論文名、誌名、出版年、巻数、号数、はじめ
11 のページおわりのページ、ISSN。(言語の表示)、(媒
12 体表示)、入手先、(入手日付)。
13 ※電子雑誌などで、ページのない場合は、記事番号等
14 を記述する。
15
16 1) 大須賀美恵子、青木和夫、他。座談会ーネットで
17 語る人間工学の来し方行く先ー。人間工学。2014、
18 50(1), p. 1-10。
19 2) Dul, J.; Bruder, R.; et al. A strategy for human
20 factors/ergonomics: developing the discipline and
21 profession. Ergonomics. 2012, 55(4), p. 377-395, doi:
22 10.1080/00140139.2012.741716。
23
24 <特集記事中の1記事の場合>
25 著者名、特集標題：論文名、誌名、出版年、巻数、号
26 数、はじめのページおわりのページ、ISSN。(言
27 語の表示)、(媒体表示)、入手先、(入手日付)。
28
29 3) French, J. C.; Chapin, A. C.; Martin, W. N. Special topic
30 section, Document search interface design for large-
31 scale collections: Multiple viewpoints as an approach
32 to digital library interfaces. Journal of the Association
33 for Information Science and Technology. 2004, 55(10),
34 p. 911-922。
35
36 *巻・号は略記に。学会誌名は略記ではなく正式名
37 称を記載すること。雑誌名の各単語の最初は大文
38 字にすること。ただし transaction については小文
39 字。
40 *英文誌の場合、著者は Family name を記載、First
41 name はイニシャルのみ。3名以上の場合は2名
42 まで記載し、et al 表記にすること。First name と
43 middle name の略記の間はスペースを空けない。
44 *doi コードが提供されている場合は付記すること
45 を推奨(必須ではない)
46
47 <Proceedings・講演集の場合>
48 会議報告書名、編者名、会議開催地、会議開催期間、
49 会議主催機関名、出版地、出版者、出版年、総ページ
50 数、(シリーズ名、シリーズ番号)、ISBN。(言語の表
51 示)、(媒体表示)、入手先、(入手日付)。
52 ・会議主催機関名と出版者が同一の場合は前者を省
53 略してもよい。
54 ・会議開催地が東京である場合は省略してもよい。
55 ・会議開催年と出版年が同一の場合は出版年を省略
56 してもよい。
57
58 4) 青木和夫。“日本人間工学会の歴史と現状”。人間
59 工学。神戸市、2014-06-05/06。日本人間工学会、
60 2014, p. S8-S9。
61 5) Ebara, T.; Yoshitake, R.; et al. “Impact of Ergonomics
62 good practices database as public relations tools”。
63 International Ergonomics Association: Proceedings of
64 17th World congress on Ergonomics. Beijing, China,
65 2009-08-09/14。
66
67 *CD-ROM などの電子媒体の場合、ページ番号は
68 任意
69
70 <書籍(1冊)の場合>
71 著者名、書名、版表示、出版地、出版者、出版年、総
72 ページ数、(シリーズ名、シリーズ番号)、ISBN。(言
73 語の表示)、(媒体表示)、入手先、(入手日付)。
74
75 6) 日本人間工学会編。ユニバーサルデザイン実践ガ
76 イドライン、東京、共立出版、2003、139p。
77
78 7) Ningen, J. Book Title. Ergonomics Press, 2017, 200p。
79
80 <書籍の場合>
81 著者名。“章の見出し”。書名、編者名、版表示、出版
82 地、出版者、出版年、はじめのページおわりの
83 ページ、(シリーズ名、シリーズ番号)、ISBN。(言語
84 の表示)、(媒体表示)、入手先、(入手日付)。
85
86 8) 人間太郎。“章の見出し”。人間工学実践ガイドラ
87 イン。日本人間工学会編、東京、日本人間工学会、
88 2017, p.1-10。
89 9) Ningen, T. “Chapter Title”。Book Title. 1st ed.,
90 Ergonomics Press, 2017, p.1-10。
91
92 <オンライン上の電子資料の場合>

1 10) 日本人間工学会テレワークガイド委員会. 2010年
2 版ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン,
3 <http://www.ergonomics.jp/product/guideline.html>, (参
4 照 2012-10-19)

5
6 <オンライン上のコンテンツの場合>

7 著者名. “ウェブページの題名”. ウェブサイトの名称.
8 更新日付. (言語の表示), (媒体表示), 入手先, (入手
9 日付).

10
11 11) 日本人間工学会, “人間工学とは—人間工学の定
12 義”. <http://www.ergonomics.jp/outline.html>,
13 (参照 2014-01-10)

14
15 <ISO/JIS などの規格文書の場合>

16 規格番号: 制定年. 規格標題. 出版者. (言語の表示).

17
18 12) ISO 9241-210:2010. Ergonomics of human-system
19 interaction -- Part 210: Human-centred design for
20 interactive systems.

著者情報

顔写真 (任意)
30mm×40mm

人間工学会 (にんげんこうがくはなこ)

19〇〇年人間工学大学人間工学学部卒.
博士 (工学). 〇〇株式会社の勤務を経て,
20〇〇年より人間工学大学人間工学
学部助教. 専門領域: ヒューマンインタ
フェース設計, HCD ほか. 日本人間工学
学会会員ほか.

連絡先: 〇〇〇@ergonomics.jp

顔写真 (任意)
30mm×40mm

赤坂太郎 (あかさかたろう)

プロフィールを記載します (100字以内).
経歴 (学歴・職歴) および専門領域およ
び所属学会などを記載.

— (以下は採択決定後, 提出) —

- ・論文末尾に筆頭著者 (筆頭著者が連絡著者でない場合は筆頭著者および連絡著者) の著者情報を記載する. その他の連名者の著者情報の記載は任意とする.
- ・連絡著者の著者情報には連絡先 (e-mail アドレス) を必ず記載する.
- ・写真の掲載は任意である
- ・掲載料は投稿規程の別表に記載されている. 著者情報部分もページ数にカウントされる.

【段組設定の方法 Microsoft WORD2013 の場合】

段組設定を表示させたい文字列を選択後, [ページレイアウト] タブ内の [行番号] にて [ページごとに振り直し (R)] 設定をチェックすれば段落版行が表示される. 解除 (非表示) するにはチェックを外せば良い. 下図参照.

